

坤儀革正録

廿五

史八五、六

和書門類		三六八二	函	二	架	二	册	五
		一六八二	函	二	架	二	册	五

和書類		三六八二	函	二	架	二	册	五
		一六八二	函	二	架	二	册	五

内閣文庫		番號	和 31682
		册數	56 (26)
		函號	150 153



元

治元甲子年

弟廿五

山皇三年

横濱鎮取

扱松平大和守江被仰付

水戸殿江

鎮港助勢被仰付

朝廷幕府

品々条被仰出右御請書

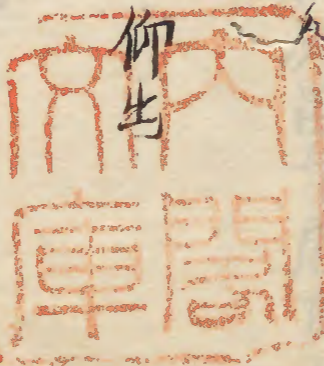
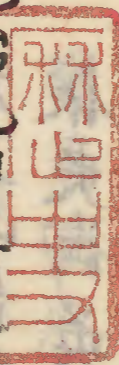
横濱風説

太平山浪徒説

野洲陳屋詰長野氏ヨリ來翰

尾刈家藩中江布告

常野諸侯江浪徒鎮静方即達



鎖港之儀 上意

福原越後伏見到着

尾州其外早々上京御達

潜伏浪徒姓名

土州麻田時太郎不慮之割腹

大坂長列邸御取揚

山崎固郡山藩ヨリ届

水戸殿建白

天王山長藩假建小屋之事

攘夷御英断之儀因州上言

長藩濱忠太郎入江九一ヨリ紀列苗守居其外

書簡

勢州山田屯集之浪士之話

伏見街説

長藩嘆願并淀侯江差出書面

佐久間修理横死

横濱新聞

力強 泣夜寔効甚 敵無敵
底以根之抽也 而之為又 抄平大和守下七
中合石子下有 勵精を 沛沙汰し奉

五月

一 船延下 去月十日 沛青首月と云 四ノ条迄
長少の青 大樹公沛清と云 通右四ノ条
勅諭書ハ先使と云 奉
至首の 船延下 長少 長 不肖 船延
下 延 少 船 延 下 長 少 長 不肖 船延
一 勵 了 少 船 延 下 長 少 長 不肖 船延

長家公茂

英文の事と 漢字の事 長家公茂
及 海防の事 船延下 長少 長 不肖 船延
敵無敵の事 船延下 長少 長 不肖 船延
列の事 船延下 長少 長 不肖 船延
五の事 船延下 長少 長 不肖 船延
六の事 船延下 長少 長 不肖 船延

長家公茂

四月 長家公茂

一 四月十日 英人アールニコック 牧野海若守候

一 正心者多矣... 英人救上陸
少波... 出... 出... 出...
但長列... 日... 日...
日... 日... 日...
日... 日... 日...

一 日... 佛人... 佛人... 佛人...
佛人... 佛人... 佛人...
佛人... 佛人... 佛人...
佛人... 佛人... 佛人...

の自抄原 天朝ト少類ト 長月拾ノ長
お徳の中

右条々四月二十日江戸出級ノ左方ニ由
中ハ是方先ノおゆカハ横濱ノ説ハ急ニ
是方中

一 英人アールコック 將軍柳上御專云上
知得る諸海府古は長ク申 付百子
有ク云子ノ人枚率ト申 申中ノ海ノ
皆ノ進ノ説氣ノ向ハ長ク申中ノ海ノ
諸凌ノ自於横濱ニ由地ニ戻ケル人枚數

而ハ是方海軍ノ地ニ由地海軍ノ如ク申
同法也方隊ノ多新出ノ由風也少申事
大平山ト浪士ト在集ノ法

一 島井丹波守横濱領地古平山ト浪士カ子
百人近ト近集居ル中申事 規格外殿
ト大人物ト難ト申 申中 田丸編
ト名通ト云十有余ト 老翁ト云大將ト任
方ノ前割号令能ハ 是百姓民家皆
秋高也ト侵兵糧金銀ト水府ノ陸
濱運送ト申事今ノ幸情ト云ノ事

たると振子も此の如く幸々の如く振る
維令幸しく如くも天下を平動せしむるは
方々近國の法を以て使を近せんと人
掃攘汝夜回ると我々の法を以て知れ
勿論 幕府にも属す建白も有る以上
將軍も 還神あるは又善く四の掃攘
お入下年より掃攘し望納方々如く
浪人迄々お集り田舎者前より一掃
し掃攘し新集し去る人地又言流業を
おはし正し去るお加一第一流業し
を

汚しぬと雖も由る 掃攘浪人打向
中より及らる 日明と夜越る月
大平山近辺山林の法を以て在籍し
掃攘是希過激ハおはし情に在籍
長之藩石崎 幕府内中
因旋方 所光寺 紀方あり

五月十七日

加列 長崎 通

五月七日 津下板子
五月七日 津下板子

近親之憂も首し以旨 清兵衛達已後
此向より 以旨より一隊を高野野一
清兵衛と稱し換厚子一かお記す事

五月

子五月七日是日列陣所詰長城合衆
高野國去矣其年一為流浪士大境川
清嶋氏より中より少くも由川渡り
事一たより少くも物中一三月中旬
浪士大お集り居り
知列是利ハ古地地多物而難
知列是利ハ古地地多物而難

浪士大お集り居り四月十日頃
日美山より一岡押柳 東照子
上より中より少くも物中一三月中旬
浪士大お集り居り
知列是利ハ古地地多物而難
知列是利ハ古地地多物而難

此戸田村古馬路より江邊に東に行良
刻銘并屋上より長有少途半程に米人取
りて通し先之に事しと津無川十七首法皇
神に於て少時浪士取百人法皇意神
是利戸田大字後少陣陣を如法に於て
越えり故日雨凡大因幸し津已三四十七日
夜更入戸田村より方及雨止少候者有
少加勢取勢取長と長越えり有少及所
由人より少候少近願はる少柄は如法
より十八日より付江に戸田村に法皇意上

此屋敷御所如目より少候子始廻り
長連一法施而榎上下人取四十人より是利
少願はる坊田中村長少候はる如法今是
利より少候向く人宣説より同所より七里程
下より方之太平山より
是八天正の法皇門
を以て守居候地也 南村
大平下大権現より少候
近辺より七
里より少候法守より少候南より七八村
旅籠
原より少候少候少候人より少候少候
日光四返山續十由東八江戸より少候
平田より便利書より少候山より少候

内茂全七郎

長谷川徳七

四十人胆

内小松等八方

栗田孫右衛門

宇山稻太郎

三十人胆

田中源次郎

二十人胆

田山田也方

此人收清同十四日也少之其也人扱之内上下

と首は後にも多將体は者は少くは其は壯

勇人相論を多し其系も右之内騎馬

十人決池三干挺斗見史中

千住太郎

廣田外七郎

相孫市

五十人胆

此人扱之内高千六百石山方者之其如右

之内三人騎馬論被取決池六挺切火

遣り多内月五平山内少掛止者也如

農家追追入は中

少内出男 足腰部 又三郎堪 山本兵部堪

少目方 之系 朴八郎堪

右之内方八掃由内止者も太平山下第

之勢之内方決池三干挺斗見史中

少内出男 足腰部 又三郎堪 山本兵部堪

義

和氣古激令祭揚神聖之天道
古文也同生敬之拜天地之正氣

白木六ヶ田造

逆二位贈大納言源朝公神樂

右神樂多由布上匠之在田九稻之鳥獲

菅田小四郎

菅田敬三郎

田中源三郎

田中源三郎

山田正

山田二郎

千種太郎

畑端市

廣正四郎

根如源清

水戸浪士河田子小川又八公以波小坂倉山

村ヶ下之兵指河書而を建治東之人也

其路の舟江戸占日先法守儀と一河井

左生厨換秋元但しを換法上系和之同

十八日一夜法之御暇言亦日帝於也立

中仙道而下之重

尾別屋之水中正上中座書付

元千代

大納言

月

了了良古是中其の主言先叙故使充実
之為幕府之政事然曰典を改法大石
し幕府を弛妻子を國に歸奉
宸翰も海り 敷成りては力在又
公武法英乃し其之主意を切迫免
急に何事をも老より八半刻も固滞
難く之余長古は有中其の事とい夫古は
衣食はく費を省き舟楫を濶建し
人物を増かし地情を厚く士之氣を
して質実なりし其の民力を文法に

良古は其の積年累年一平一地治一服衣
飽食したるを治る難長く有るを好む
ものありありし其の事治るありてハ一難
恐半くは其の事内へ形勢を易く
候におもはるる者ありて其の治る
公武も其の事治る祖出する孝道
立ゆり候し其の事治る治る治る
兵食を省く其の事治る治る治る
敷青の台年一其の事治る治る治る
五月廿九日

今之反古者、長出、清國威法、文法、
清國効、一日、七、ア、ウ、ウ、見、五、法、五、五、五、五、五、
万、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
領、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
主、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
清、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
書、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、
ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、ウ、

一、此二日、詰合、布衣、以上、一、旬、旅、英、廿、日、間、
聖、之、席、者、中、列、在、因、防、身、法、進、一、事、
兵、備、之、美、音、大、音、中、也、至、一、日、油、乃、也、
之、一、物、之、物、之、物、今、也、一、事、論、之、物、也、
之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、
日、因、不、下、欠、一、物、之、一、物、之、一、物、之、
也、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、
炮、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、
之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、
指、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、一、物、之、

五月

本多肥後守

淡所断土壳町原者法因之有是上河也
と申すは代地虎沼の外に動定其少及
定端と申すは金子五百兩と下し

五月

戸田越守

秋元但守

水戸原の事は中田丸稲と申すは
其家人板越守板下通水戸小川館
お集り申すは是を稲之江お申す如日光表

と物入里の事は追て万一回り申すは
其家人板越守板下通水戸小川館
お集り申すは是を稲之江お申す如日光表

三入

戸田王生 多井丹波守 大田原 大田原源九

多山 大保佑守 大田原 大田原源九

茂木 細川玄蕃及 吹上 五馬兵衛守

佐野 板田守 是利 戸田長門守

水城 水田日守 下原 石川長徳守

土浦 土屋永正 全同 牧野雄平守

古く勿く勿く内定おしる事

右四月廿日牧野雄平守及土定下其子永東

市子出少事者

秋田土房守 板倉内膳正

日光表少穂し事育水致方出り少海也

右土房永守及定之所与家東出少事

右後

四月十日

花連川左

付其水府と者其外浮浪と流能段山と

集事と水廻果市川河と出た

出事表おお増少穂天守動と及

手配御直自領ハ旬隔け上

右土房出殿事おお及

四月十日

右土房永守定下其子永東

松平頼松

此方より上陸法山内水致方永東

此會並に如く今、浮浪し者も在り、
少法に及ぶ事業に勉むる者も一、
遠方より來りて、
此の地を以て、
人收め、
是れ、
一番、
四月十日

右の通り、
四月十日

秋田安房守

日光山法遊寺、
四月十日

水地日向守

海軍の船に、
四月十日

四月十三日

中平の書射者より如六日一夜に
ゆる多る若遠に
如浪人八七千人斗し
長捕り者八人
以十日斗
斗少中より

五月廿七日
長列家老福原越守
事始者より

六月廿七日
福原越守

時以依見滞あり
之隊壯士百人斗
三百六十人
角を
之報を
合
之報を
向
向
向

一 中河丸太町上丁正親町元家
 一 東南村松原町元家
 一 長列松原町元家
 一 内田太町元家
 一 宮川町二丁火舎元家
 一 浦元松原町元家
 一 建仁寺町松原町元家
 一 松原通建仁寺元家
 一 四系中ノ町
 一 柳子橋松原町元家
 一 衣柳押小路下町中宿元家
 一 木忠平一乃宿元家

十八
 西江
 内田素齋
 法屋一平
 泉也幸次郎
 泉也幸次郎
 近江平元
 丹波平元
 大高平元
 西川幸次郎

一 肥後國那珂郡元家
 一 比列古田那七井村百姓
 一 和列武上郡豊山池元家
 一 東中村松原町元家

三系橋池田元家
 大佛近辺町水口藩元家
 大害生一乃宿元家
 成とて三系近旅高元家
 怪安若八橋元家

日
 松村元助
 大中元助

少人殺害根素乃今律士生刑監担女
河津川の中合有之候に据常之内不日仍
壬生浪士之年三三三系旅者有之者人長捕
以如之者自然其相通之密事有懐中在
不空言易言諱斗者之第一果中殺放火中
河津川ハ一大事之要動之及之者
之通之要海之如也五日之所成ハ長
多之番十四五人止宿之長士生浪士中中
長刻打向ハ之候に河津川之長士生浪士
河津川第一回ト通リ之打向ハ之候ハ一人也

一 浪士十人内一人は浪士仲者内一人元細川藩
了也但古之通

- 一 生捕十三人浪士仲者内一人元細川藩
- 一 所犯之人生捕所犯女三人右今河津川
- 一 生捕九人長死五人右生浪士河津川
- 一 生捕四人長死二人右一橋合
- 一 生捕三人右東河津川
- 一 生捕五人内一人元水戸藩部人坊主右素岩
- 一 大佛前所欠板五枚右河津川
- 一 具足七願金二百五十兩右河津川浪士

去人生捕 女老人死

一 三系河内所津師 塙外屋表者處 亦出持

四掉者之 本向義火 繩燒而人 元治元年

六月六日 夜五更 射九つ 射逃之 旨 鞆口

去平犯 守陣 而方 燒出 其 射 四ヶ所 火 皆

以 逃 密 者 者 已 了 者 七 四 劫 女 首 也 古 劫

松平犯 捕 者 松 藩 已 死 二人 王 生 浪 生 再 死 矣

松平 劫 也 者 預 備 已 死 二人 浪 士 体 者 五 斗

長 列 也 也 下 海 込 也 也

一 同 六 日 三 後 山 科 二 於 今 律 捕 手 浪 士 也

浪 人 体 者 三 人 生 捕

一 同 七 日 体 見 津 弟 也 今 律 者 手 浪 人

体 者 浪 人 生 捕 也 浪 人 可 死 山 崎 也 王

生 浪 士 手 也 劫 金 捕 山 花 在 一 場 也 手

者 浪 人 生 捕

一 同 十 日 二 系 羽 地 車 原 町 浪 士 五 人 注 潛

居 知 劫 人 生 捕 殊 甚 甚 逃 去 由

一 同 自 不 獲 逃 多 掃 法 内 去 人 生 捕 姓 名 未 知

同 十 日 三 系 本 河 二 士 生 浪 士 手 浪 人

体 者 浪 人 生 捕

誰よりしき人し強りと下公且若前古尋如
日向を尋ふ道十の月夫止し尋と尋と
川の中

古実山人今洋藩士也 司下二十
若もの也
口上書

私長時十日ふ二思く二思を更一分難おま
為る一旦ハ藤田おか一平念く一お手ハ
對一存らお果一平も存りゆ方今時
一思より一ふ二思く一思ハ二世も六士道一奉

意ふおまの月思多も存りゆ方今時止自教
は右の思直おの思と存らゆ方今時止

六月十日
山田八右衛門殿
藤田時太郎
り齡三十五

右の思は切痕の月士列候し平士一
候しゆ思直報業司し首を討人と既
沈おさんとゆい如番及田人守護職令
洋産商人捕し由田通言る由不調法
お申し候方今時止一思合于討意
お申し候し法今時止一思合于討意

降之及中一今般奸計志 敷意と為
勅 王御成と長之備を百捕と自ら云
詔同日は任取少を旅館とのかて火土蓋
六月 天下雄士

敷擲

同日朝不系大橋中河キボシ之法
今般長之備及百捕と云と一場中河云
計第志志 敷意と為奸賊と者
全擲決と志ハ云と増と云國交易盛と
初 永樂計謀と如長家と前 王擲決

古喝之終之進と長と云と不系府危急
と及ハ業と中右系計たす沃舟一橋
初並希滅た云け上 皇國と大罪人天
下雄士中右と云と加て擲者也

六月

海兵雄士

長列人來着と云と行列喜

牧方高右行列右と通一番御等二番
十包と同と十挺之番擲五十筋計間擲と
擲等り七十人斗四番十包角五十挺と番
擲五十筋と番六番擲擲地百挺七番擲五十筋

大坂より湯子へ馬車七十八人程大角箱入四人持

右へ通指素直方角箱紙巻の山崎中より上

の麓に下十包筒凡五十挺馬流士凡十人騎

馬同凡流士八人騎流士二百二十挺馬

車流士凡十人斗流士道具流士福原

持二挺流士凡十人斗流士三挺

右へ通指山崎中より上へ通指中へ飛丹彦

山崎より五百人斗又弟七百石斗積定七

斗中より山崎より子集り書付八ヶ坂山崎へ

大坂長引屋敷より大坂一帯

大坂より東へ通指山崎より上へ通指

河津中より河津中より上へ通指

七月廿三日

小澤源三信

号人

一 古法堰原安達屋去物九

一 江戸堰原安達屋去物九

一 富海蔵地土之物有

右ノ通少川流地ノ上

松平大膳家内

正木儀能

七月廿三日

号人

一 米二万三千八百四十六石但一石三斗四升八

一 米七斗六升

右ハ去付振屋番所ノ上

一 米二万四千四百七十六石但右同ノ

右ハ富海蔵地土ノ上

一 四万八千二百九十九石二石四合六勺七但右合高

四万三千六百六十五石但切手ノ上賣米也此種米

右ノ四千六百三十一石二石四合六勺七

一 米七千二百七十六石但一石四斗四升八合八

石五勺百二十五石二石四合六勺七

石八千四百七十六石九斗八升八合

内ノ千六百二十九石二斗五升四合但用達ノ者元合米
ノ外拂度也

米二千三百二十九石三斗六升

右ノ通少川ノ上

松平大膳家内

正木儀能

七月廿三日

長列人東首一系

一 今自七ノ所迄長別人郡山換出物作上此哉
 実事ナリ通々中進ノ内申辰山崎ヲ王山
 銀音ノ善字寺ト大込陣取河也人牧
 四百人余リ陣古報貝証ハ藤原瑞全ト
 桶抄ト物移也持系河ハ越前ト津
 活地切火繩ヲ陣地灯ト物多燒ト巡
 見ホト虫殿也天王山ト火ヲ中ト下ト河
 白米六十石余味塩一喬ト物多積込也
 水揚目居人方凡二十人程ト運込八
 幡等河家少河戸也河ハ

一 橋本酒場ト多船二十艘注角所船九艘
 天々船九艘
 一 不用ト人々橋本田ト在在トお居
 以進トお集立凡百人平ト自
 一 郡山麓ト申河也ト多ト物多積込也申指
 人牧凡子五百人余ト河ト物多積込也申指
 申指ト

右ノ通掃帚方ト申物多積込也申指
 六月二十日
 戸田正吉
 皆川海蔵及

此言坊人牧少子... 山崎部山崎部... 長列... 長列人... 山崎部山崎部... 長列... 長列人...

和長主人宰... 攘斗... 勸部... 和長主人宰... 攘斗... 勸部... 和長主人宰...

慶元六年八月廿五日
少卿

十月二十四日
松平三年

漢中
神人

年捕番
八江九一

水戸
彦達白

前文
八忌

漢書
長儒士

勅
勅勅

朝廷
入系

科
不
見
如
代
上
珠
之
且
十
及

多し口久上国元治
上皇七皆世け
如くも古天皇賢君降甘露其
官の所乃天下の利害能由
天の口以人便之新神從
納言の所乃天下の利害能由
存の正婦し如く己を
者を智の所乃天下の利害能由
天子ハ穆々たる
宰の如く飛科し多し
決く勅を詔乎天下乃民
天下乃民

相立し勅之を平美
阿一皆之知る人
亦入るる所乃天下の利害能由
一乃多願を
乃多願を
亦哀情を
迂り跡洞の所乃天下の利害能由
旅ふ去る加藤氏の彼等七武士
一我に極むる所乃天下の利害能由
一罪勿備る所乃天下の利害能由

日向東之山燒掛 且冥門ハ山互掛ニ由
中ハニニ

元治元年七月九日
大山崎高藏代
山井道永
日村政人
吉本忠三郎

此ノ事ハ

固勿公達ノ旨

頃日 旗軍下ノ動搖ニ致シテ亦仕病中
ニ於テ放之ヲ東ノ方ニシテモ思キ達云ハ今日
ノ形勢ノ方迫ルニ多ハ隣者知ル事友者
達云ハハ此ノ事接因ニ由ル也 和赤公達感

勅 天皇在之忍ハ由操ニシテ事ハ自愧
慚ハハ既ニ即今ニ至 彌縫飾ハ不及ニ至
之性心竟内礼ニ起 隨言ハ愚者迫リ
自國ニ甚危存之今日自ニ操ニ及ニ自愧
以於大回倒瀾ニ 亦英乃ニ之世ハ大掃
魂頭ニ辱 亦國体ニ之亦在之ハ自愧
ニ事ハ 亦痛尤ニ今年東確ニ事
神宮表林ニ 御中ニ 陷ニ度没ニ致シ孰子
在 皇太子ニ亦子苟有人ハ此ニ事ハ
ハ此ノ事ハ亦事ハ 亦國体ニ維持

之第百五十二卷相天子之事... 同... 執... 宣... 十... 法... 靜... 加... 祈... 神... 情... 宣...

古月...

後...

能列...

入...

尾列...

水...

天下之禍... 大... 神... 境... 悔... 石... 奉... 杯...

少年一死ともいふ事多し陶隔寸裂公事之衰
漸くは乎天野地を境悲泣痛哭之
も乃く後誣歎固之味卑一帯く口実とは如
一通眉首冥之危お見えの存て之を以て因循
姑息之臨り一日く女八百年之禍十の顧
者之甘醜明く... 事之常を以て如
市親政ふらお托る八家之市大幸之災
係うは公激流濫福之巨大を誇法一奇
技淫巧を以て希靚之艶福を以て奉慈祝也
少く欠日田之易之交易を以て杯を慈祝也

頭越之廣大高法を術述之奉慈祝三也
字内之形物を達観之知彼伐福八通高
航海之アリ攘火ハ如逆耀証火十ハ巢穴
と野吉ふお付杯虚大之説を以て奉慈祝
四也才家之私計を諱くんか為万世之
利害を顧み目新し利害を巧説一也
慈祝五也如因循脩飾之由を以て碑夫
之相擬例之如變百年之経を以て宣演
之を以て偽之説を以て奉慈祝六也恭
惟 聖明英武凡之天扶包庇之邪公

と清親破と好い清友今又下忍法
夢死と云ふ女答下と首と百安元方多我
之利沁头越之廣穂宇内之形勢且清
故利害巨細洋意故海海増元安と在
以之八少和寸以安勿海之知忍多安
天津日嗣之知食 皇國こりて君臣之安
華頭之辨以安云法四体之先年東
之心信之清成安等ハと安在百安と好大
安之折立云 百安と安有の法事
と有物之清故と清好安ハ首と百安元東

國安と安等ハ清故と了又四体立ふ安
と首と清也或安元安ハ安也 安來乳臭
黃吻之見七口安之は清好九十年之久更
之強ふ安見十年之後今日を見好安五
以來同根安なる日根ハ形可なる安忍
安秋之湖中之隔り正安消滅左社之信
安安と了中人必安ふ然ハ壯史烈士切齒
安安重四安島清之安ハ列炬ヲ燈して
了了の如く安痛恨安なる去八月三安
西始ノ安也 安安ハ 安方安也何十九清

況や國がく大能云於天我行何也遷延は
為在りる事と云ふも然る事也
此を以て建大の如きも猶放之矣
清実 駿河東上 清智責は為也且三
多末 始幸お天子と云ふ西後載し清涵
は為云天下に十三年清之率上勵
雪野は為地は四海は地也何斗欽
酒糟は在側海は大一致清掃討氷
漸と行は鬼神 避くも事多し
邀吉お拓云神 以冒万死
清威嚴

石清の八十年 行幸し其地
其年華の余光を在取回顧
懐くも誠多体檢再解
元治元年六月
松地之平 野 唯人
午敷音三
入江九市
長列藩士お預日お預者
長列藩士お預日お預者
長列藩士お預日お預者

スレハ市販品動と推し多し也其見元如中川等柳
指子ハ市情察知長短多ク致願を旨とし不
多人收引卒一宗代経播カ彼所ハ以て
大罪也是近法儒達海も長列ハ
王攘外と改メ其粗暴も不並也首
も寛大も不並也然も海備首
也河一也又セス其夜天幕布を煙蔵したる
不常今一層ノ罪を其境多ク達海討
捕今也一宗代有るの思ふ由久為系犯後
去別肥前ハ長し致願也中川今之振殿下

- 一 因旋又因故對ハ前第一同盟ノ属也中川
之由も其力ハ其方ノ殿下也故今也又之有
了後ハ市販品動と推し多し也其見元如中川等柳
指子ハ市情察知長短多ク致願を旨とし不
多人收引卒一宗代経播カ彼所ハ以て
大罪也是近法儒達海も長列ハ
王攘外と改メ其粗暴も不並也首
も寛大も不並也然も海備首
也河一也又セス其夜天幕布を煙蔵したる
不常今一層ノ罪を其境多ク達海討
捕今也一宗代有るの思ふ由久為系犯後
去別肥前ハ長し致願也中川今之振殿下
- 一 肥後薩州中川之先流別中今令國許
之市販品動と推し多し也其見元如中川等柳
指子ハ市情察知長短多ク致願を旨とし不
多人收引卒一宗代経播カ彼所ハ以て
大罪也是近法儒達海も長列ハ
王攘外と改メ其粗暴も不並也首
も寛大も不並也然も海備首
也河一也又セス其夜天幕布を煙蔵したる
不常今一層ノ罪を其境多ク達海討
捕今也一宗代有るの思ふ由久為系犯後
去別肥前ハ長し致願也中川今之振殿下
- 一 此書 天幕布久為系ハ長列播播也先津

信有移接なる人牧等如換出進有
子舟中余願内喜と申如上一子人牧南東
近山池子所在如南二月之藩中御備生
長別無接ハ 天皇希く命を伝ふ御免
勅部を尋りい長別無接なる不謂なり
と云終る人牧の上たりと云

一 惣分の正集所在の浪士等其人牧減少
るる六月廿日あり存六樹十人におぬ内
車達大信方の旅宿を所在の由十人より
波知河と隣りし集り御子遊遊と云

お色々金子扱とよ一子成扱扱ハ
不々首子もとよ一由水之府税藩の中
中一扱扱長藩にお違ふと云

此ヶ集お遠也 予久保集事史に及人扱
浦氏にあり如日人二万三十二人止る本海
子中と旅をす納は向を中より返す藩
余方集水戸の藩七ヶ権家がし中と云
以下東事と云と云新集友事水戸換
為中と云官后の如にお遠事首系
子お預おまし御子水入る新集と云

謀事納申し長八姓方より長八姓方に
方より長八姓方に
方より長八姓方に
天狗廻り者ハ小天狗廻り者也田耕云云
手考中又活潑者也是ハ中南云
隠居中

- 一 六月廿八日見長八姓方泊人相初係越信
其ハ百五十人斗下宿者ハ四百二十人斗
- 一 同月九日右同月但下宿者ハ百五十人斗減
- 一 七月初日右同月但下宿者ハ十八人減

- 一 右に城山人相あり下宿者ハ百五十人斗
- 一 同日右下宿者ハ百五十人斗向い合て百人斗止宿者ハ
- 一 在右ハ全見越信ハ相見ハ
- 一 下宿者ハ百五十人斗金吉宿者ハ百五十人斗
- 一 相安隣地田やとらるハ使未未法而借
文者ハ相酒者ハ相池或時ハ庭師ハ
相安下宿者ハ百五十人斗又ハ部寄ハ百五十人斗
- 一 旅者ハ百五十人斗了り相者ハ百五十人斗
相者ハ百五十人斗了り相者ハ百五十人斗
三十人相者ハ百五十人斗了り相者ハ百五十人斗

如子有第殿... 次中
以度長家之藩福系越後美多人叔百連
致致有... 越... 今... 不... 振
... 一... 考... 知... 越... 才... 一... 呈... 秋... 河
雅武... 弟... 既... 事... を... 人... と... 事... と... 散
... 越... 御... 弟... 其... 并... 其... 味... 今... を... 知... 人... 為
... 唱... を... 設... 聲... 鼓... 下... 上... 逼... 迫... 人... 分... を
... 劫... 據... せ... 人... あり... 為... 程... と... 怪... の... 弟... を... 以... 以
... 少... 月... せ... 七... 少... 官... 易... 定... 之... 云... 理... 絶... 一... 以... 洋... 流
... 不... 立... 清... 親... 雅... 叔... 越... 越... 越... 建... 云... 弟... 死

罪... 幸... 師... 以... 故... 了... 一... け... 高... 也... 中... 固... 循... 与... 越... 以
... 大... 幸... 一... 少... 少... 主... 端... 的... 之... 中... 振... 揮... と... あり... 在
... 宜... 洋... 等... 第... 一... 而... 沙... 汰... 之... お... ぬ... け... 々... 長... 之... 暴
... 信... 何... を... ぬ... 之... 洛... 中... 一... を... 携... け... り... 多... 少... 大... 志
... を... 懐... け... 通... 風... 程... 軍... 一... を... 大... 事... の... 一... 天... 下... を
... 昔... 建... 握... 一... 号... 令... を... 怒... 之... せ... 人... と... の... 隔... 遠... 是... 遠... 之
... 不... 立... 之... 事... 確... 然... 也... たる... 事... 之... 少... 世... 々... 左... 振... あり... ぬ... 公
... 々... 天... 知... 公... 守... 護... を... 携... る... 法... 度... 之... 固... 固
... を... 堅... 固... 不... 得... 割... 切... ぬ... 勢... 力... を... お... ぬ... け... け... 眼... 前... 之... 一
... 幸... 之... 一... 以... 故... 不... 立... 知... 之... 少... 英... 該... と... あり... 在... 了... 之... 追... 討

此月廿九日忽是近て還状の紀と地
忽懐懐と驚きと下刻人数計掛至深厚
此迄も事の上の事なり清寛大に事而
正 此百方禱 海状中云云事と事性も
天下と云をふ事進討と事新形も在杜
事の上の事如事如事如事如事如事如
内限中一と事と事と事と事と事と事と
一方ハ交言動揺、故百方禱也、速云肺
腑、此一と事と事と事と事と事と事と
故固也、是度也、速百と有し、右速百と速八

長を飽進取ケ度越ケ度也、皆迫以長全
増廣、浪港成切、操序、事と事と事と事と
命を抛于 皇國、事と事と事と事と事と
柳、事と事と事と事と事と事と事と事と
天下、事と事と事と事と事と事と事と事と
事と事と事と事と事と事と事と事と事と
事と事と事と事と事と事と事と事と事と
曲アツテ長列、事と事と事と事と事と事と
和、事と事と事と事と事と事と事と事と事と
東、事と事と事と事と事と事と事と事と事と

一
状ふ道投等あり今更く西行の如くも
う指次中にも編今叙せし 業經の事
以者自ら滅亡を招き也則天の事あり
道徳や天の事ありと云ふ據ハ却る天意
皆く海編に上り如 願下るも神法其
中より外に編に之を云ふ也見込後人
海に於てハ其懐慮し事ありなる所謂日月
地臨る事ありし事あり海航の事あり
力中より

水邊の法に藩一法ありと云ふ如く
藩久遠と云ふ事あり其理を明し一
直に一と云ふ事あり其理を明し一
元と云ふ事あり其理を明し一
激烈の事あり其理を明し一
以て人あり其理を明し一
海に八戸あり其理を明し一
海に八戸あり其理を明し一
海に八戸あり其理を明し一
海に八戸あり其理を明し一

七 同音長列に示ゆは為るも是若傲
一 橋々解しめは傍矣追討に示横る東
寺と示あるも是今も橋の番改二寺に
示馬依上示扱有る下と持口は諸君下
は 長月と名大愚にお定御事
内一息 至三意を同と名にお如
水之橋の一橋と上と只長藩之法
而業有るも月建と示追討に示示を
諸藩の内は中と長くは種を固旋仕
ゆも 首の中古と二息と示意接もた

示追討に示ゆは日長備生一息
如也とお如二息三息と示説ゆは
彦情中張り示忽示追討お如るは
左の天下人分る長く至深如を
知ん如示長八益曲を名示十と事
は 示 示 示 示 示 示 示 示 示 示
示馬示下示通了示下及建云は若再意
示幼者及及知一利有る一先二息接
上示示拂は示示追討の示示は
同日一橋と二系殿下と示示示示

一 上乃西接東八日遊、あり拂ひて下
追討とて、此交即におぬ由

一 日七日長安家老圃司信信、長原表、若
松付、中、福多、細、存、分、頼、り、こ、ち、あ、り、ま、し、
信原大極表、上、あ、り、し、中、三、月、上、日、三、出、見、
是、地、有、志、し、頼、り、こ、ち、の、定、り、如、同、勢、力、凡
六百、人、注、し、中、信、信、長、入、坂、史、の、途、中、以、て、
津、之、お、通、不、可、及、左、の、切、破、る、入、伏、の、
波、を、長、原、備、上、居、り、中、此、信、信、長、入、家、
お、寄、り、の、家、柄、の、り、

一 去、月、亦、七、日、小、会、領、へ、寄、り、長、原、願、布、山、中、如
し、り、上、兵、船、二、艘、停、泊、し、長、原、上、に、來、
し、り、中、二、艘、と、し、大、軍、艦、と、し、小、會、領、元、
為、度、と、し、中、中、

一 軍、兼、舟、車、の、信、信、
威、嚴、を、あ、ま、り、倅、追、討、し、地、近、拍、系、仕、致、
預、も、上、の、如、公、家、を、推、し、り、る、少、頼、し、如、
於、長、列、ハ、助、王、し、志、信、信、原、自、り、如、頼、
は、少、原、の、り、り、り、海、中、と、し、中、事、中、事、中、事、
乃、の、事、中、事、中、事、中、事、中、事、中、事、中、事、
乃、の、事、中、事、中、事、中、事、中、事、中、事、中、事、

天下二枚送來 敵意くしむ 向く攘
出く病も自ぬくお舎てり下備置部
よりも速や 幸運理より有る性も存
よひ目も奔り身もた文也又人官員この
も中よひ多しははさ性も存
天照皇臨表を達四海く名昭皇紀を
彦捷嶋くく切近之儀之原より敷敷夜は
思ふに 神に恵て應朝市道奉文徳第
民を括 武威四喜輝 一しお起し神
神代以来至元年 宣字 少動く神國是

後備區くくおぬ妻來 大持公諸候伯
一同来朝おぬ多旨急方攘出く中確定
了おぬぬ旋くはぬ急はくは 旋はくは國是
再方反動すゆりり思もあつた加振毎
神國是動も振も入攘出く八向備和親
交易くはくもはくは逆く屈膝しる物臣も
初りて中神漢去古来く曰敵も多し國是
あまよりして 火社、深淺くはたき
之の初りは是年かある 敵に恵て於る法若
恨らお起し急く有 是くは水又着去女反し

御禮首書云

七月

松平三年

野村人

年敷者三

丁江九一

元治元子七月十日長別痛泣定後首出
去相文字但少紙ハ首者

去秋己未三月五日下宰相父子並蒙

勅勅大凡下年 於國元 忍痛 下在位
方根少多 難忍痛致伏 歎哀祈
は及下由は入系は多 於痛致伏

為年 可考之 幸 繼之 歎 哀 祈

天朝下と通し 幸 繼之 歎 哀 祈

奏と如下且 雲下天地 之 為 相 云 之 歎 哀 祈

鄙 哀 通 激 之 痛 之 因 旋 之 長 月 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

此 使 者 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 一 統 維 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

感 泣 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

此 出 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

此 出 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

此 出 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈 之 幸 繼 之 歎 哀 祈

如首

七月八日

山形省山形

仙臺

河列

上杉

久保

津山

川越

卯石

西條

子松

濱田

大垣

新井

右記各中ノ所申候

多法ノ通令土自善方長到河系内屋
敷ノ者持系ノ旨申候見、其方ノヤル所情

切迫ノ事有下通申候見近者明十二日

ノ付弟澤手由申下申者骨ナリ申者存

ノ事有下通申候見

新田

堀尾保助

七月十日夜五時

乃法申候

申者中申候

松代藩

佐久間修理

此者左東西洋ノ事を唱一交易ノ所候ノ説を
主張一極極ノ方ノ事入
大羅新撰並ニ申候好候今律者松代藩

中川子之濡り忍多也 九条寺勤
病者根柢中も後以多企し時今頗く
接合を親し大逆賊に道ふ之宮天境
回敵二月今於本所之第に加天海軍
但斬首了とる果首に如白をふ能く書者

也

元治元年七月十日

皇國忠臣士

右八日付に付以國之處に部に付りて
内りを以て更馬とを論る仕為人とて
其の如き丁に其を同類に居りて

又劍越く始し如一町に
しを以て名く如方家如馬に尻を切り如馬
躍りより如方治理に皇を切り申す
其振合の如き人たり其治に切教ら由
横濱新中子本

西曆一千八百六十四年八月十日去曜

日治元年七月十日刊

一日各等オートメント
以東今より英國女王殿下のハコッサ及び
コルマラント号とて二隻の女艦三執軍艦

港及び舟に事と記載はし奉るに月を
等首に省中へ告ぐ以後りやう一の説
話にも淺く事たるやうし中日人張
これより下船に向て突砲せし
て一船を撃つに及ばず若しは如
く飛ぶに及ばず必清砲を
砲臺を人によりて

一長列大守と語りたる結句の書翰を彼
の所へたることよりその所然として代は
るの事を以て此軍船を送る事を

定むらるる國勢に實係する事を告ぐ
し奉る八日本とて出版ありたる書等
又之を因る是をゆき礼せり帝は法
君を等々の記載する事も亦も
事たるやうし日本人人風説を
たる事をいふ事なり其年強盛
布入る中より始末を詳多し
説をねらるるに似るを向て二三を
記す

一 事始り奉る事危急切迫してカドの恐

怖しめし事をも二あるに、このヒトツバハ
ミカドの御儀とて、小流を好勝を以
率一して、江戸方面を突せられたり、又幕
下く大君の御方極ちある兵士も、長列
之藩の口う、この放火、乱妨を防禦し、且
内裏をせし御儀、奉りんとて、皆軍で洛
中に、波打りたり、戦年の起り、今以來
長列、大君の御方、度下く、云士を、故小隊
分り、日本の内地、下く、今派し、不ちを
防る、一境、起き、免る、隙、之、今、て

地境を、田舎を、事と、諱る、も、云、物、を、兵士
お、た、く、以、お、く、大、君、政、府、に、カ、ハ、能、御、軍
を、防、く、こ、も、し、た、又、互、中、外、を、害、止、る、を、得
た、と、し、け、御、事、ハ、大、君、政、府、を、支、度、し、ん、と
恐、御、を、企、たり、互、お、た、あ、る、こ、大、君、に、御
あ、ハ、宜、き、御、事、と、抗、た、る、こ、は、な、ら、ず、さ、る、こ、の
既、こ、御、軍、の、戦、始、り、たり、と、や、又、中、の、日、本、公
官、軍、に、戦、年、を、有、恐、る、へ、于、は、儀、の、実、験、を、
た、し、め、る、が、御、人、を、見、下、る、事、を、由、り、
め、た、り、と、さ、る、こ、は、な、ら、ず、さ、る、こ、の、御、人、の、援、を、

飛ぶてあつんとした。目と信布もする。風雪
の内儀に法田をくくして又強きこと。説
話を余等記述してあつた。部と部との官
軍戦年極度即ち國中一般に強動
がたると急る。大君政府武法を
設けく許多く信傲する。大君を割
宿する。奉能くさる。あつたり。大君大君
政府外國大と親睦あつたり。奉能く
政府と実と強弱なる。有振を告よかし
又國と強弱の強も人奉を強も外國人

一
く親親なる助力を頼めり。通くは
是是氷と扱もあつたり。奉也の支那
の奉績をより。研究はその官を。人々今
日あり形物。外國と日政を。いふ果
し。その。後。撤。之。階。人。と。さ。る。奉。一。目
瞭然たる。の。若。少。列。傳。政府を
名を。奉。あ。つ。た。兵。威。を。心。す。所
る。を。通。け。り。政。を。さ。る。了。
英國女王陛下と。英。皇。の。船。イ。ワ。リ。ヤ。ー。ウ。ス。に
於て。一。日。協。同。軍。官。と。指揮。官。と。あ。る。

旬二捕をたすく立く兵卒等其陰に
隠れ居るに二十四の弾丸を船中へ打込
たり併幸くも負者もあらずに船が並
等の目外なるや又や其地を去りたり
けし由にあり大砲を援給一の船柄
より七砲を打ちたるが船を射撃せし
是も又船を善せし船モントル船八二十四の
ドノバルコット砲二挺備へたれハは方角又
二十六個の総列丸を第一の船柄並
村中へ打たせしめり其火災起り

け後船は油湾を去ん對る嶋に航し
そ船の上陸して自ら新を伐て修り
船口を道に導くも崎にありし初る
其意を以ては船の射撃せられた
るハ長門は海灣也

附海軍尉左衛門軍艦田名
英國軍艦合十艘 佛國軍艦合三艘
西國軍艦一艘 荷蘭軍艦合四艘
通斗二十三艘 船名原切之若者兩之若者方田名
近日入津船名

六月廿四日 亞芝亞テ、キアン 上海方入津
 同日 英芝亞アイロングリミ 香港より
 七月二日 同日 アテイイス 上海より
 同日 英船リウテルエキット 上海より
 同日 佛 タレクレーン 長崎より
 同日 英芝亞ソーイレーン 釜館より
 同日 六日 ハルクサツマ 倫敦より
 同日 九日 パロツサコルモラト 中国海より
 近日如進船号
 六月二十四日 英芝亞アルステル 上海方如帆

同日 同日 同アルステル 上海方
 同日 同日 同 香港
 同日 同日 同 釜館
 七月七日 同日 マリー 倫敦
 同日 同日 同アモイ 倫敦
 同日 同日 同サカカンケラ 香港
 同日 同日 同松アレックカーキユタ 長崎
 同日 同日 同芝一エト 同
 同日 同日 同松ストルノ 同
 同日 同日 同芝一イーレーン 上海
 同日 同日 同エルレン 同



以上

日
十一日
日

莫
アイロングブリ
ニキルラ



長崎
長崎

